**中学校チャレンジテストの見直しの背景等について**

資料１

**（１）見直しの背景・経緯**

平成30年度、地震・台風により2回延期になったことを契機に、チャレンジテストの是非についての議論が再燃。議会からも指摘を受け、令和元年度前半をめどに、見直しを行うと約束。

　・小中学校全学年を対象とした学力・体力、生活アンケート調査を実施して、一人ひとりの成績の経年変化のわかるデータをすべての学校に提供し、さらなる学力向上が必要。

　・現行チャレンジテストの評定の公平性の担保については機能していない。制度の作り直しが必要。

 ・特定の日に一斉に実施される1回のテストに、評定の公平性を依存することは課題。テストに依存しない評定の公平性の担保の方法の検討を。

　　・中学校現場から様々な反対・懸念の声がある。選抜制度をめぐるこれまでの混乱等を踏まえ、どのような決断をしても

中学校現場にきちんと納得のいく説明が必要。

　　・チャレンジテストは入試に活用すべきでない。テストそのものもただちにやめるべき。

**（２）見直し議論の中での論点整理**

**①評定の公平性について**

・中学校の絶対評価について、チャレンジテスト結果による評定の見直し割合は減少するなど、定着しつつある。

・引き続き、調査書の評定の公平性の担保のため、1年から3年まですべての学年でルールが必要。

・3年生において、５教科の結果だけで９教科の評定平均を決めてしまうことの理解が得られない。

・１．２年生において、１回のテストで評価が決まってしまう場合があることで、指導に影響が出るとの声がある。

**②学力向上について**

・中学校の学力は向上し、ほぼ全国水準。さらに向上維持するため、テストの継続は必要。

・小学校の学力について、国語の基礎的・基本的な力に課題が続くなど、学力の土台づくりをしっかり行う必要がある。

**（３）見直し案に対する意見**

**①評定の公平性について**

　　　・ルールの変更案は以前のルールに比べると良い。変更されてよかった。

　　　・1年生から3年生までを同じルールにすることはわかりやすくて良い。

　　　・このルールでは、学力に課題のある子どもが一層参加しにくい状況が生まれるのではないか。

　　　・実技4教科のルールも結局チャレンジテストを活用するのはいかがなものか。

　　　・実技4教科のルールはなくて良い。

　　　・実技4教科のルールをなくしてしまうと、公平性が保てなくなるのではないか。4教科にも何らかのルールは必要。

　　　・府内統一ルールの変更については子どもたち、保護者に対して混乱のないよう、丁寧な説明を。

　　　・チャレンジテストによる評定の公平性のルールはやめるべき。

４－３

**②学力向上について**

 　　・小中学校9年間の児童・生徒の経年変化を把握し、子どもたちの生きる力を育むテストとなるようさらに発展させてほしい。

・子どもたちの学力をのばす先に何があるのか考える必要がある。格差をなくすような施策を進めることが必要。

　　　・小学校で新たにテストを行うことはありがたい。実施学年を拡大してほしい。

　　　・すでに市町村で実施されているテストとのすみわけを検討してほしい。

　　　・授業改善に資する内容のテストにしてほしい。

　**※その他**

　　・チャレンジテストそのものをやめるべき。

４－４